

横浜市衛生研究所の移転再整備事業について

1 事業経緯

昭和43年に磯子区に建設された衛生研究所は、老朽化による外壁のひび割れ、雨漏り等が発生し、健康危機管理施設として危険な状況になっていました。また、検査項目の増加・細分化による検査機器類の大型化・専門化により施設の狭あい化が著しく、効率的な検査体制に支障が生じていました。さらに、平成18年に実施した耐震診断では、平成27年度までに対策を講じる必要があるとされました。

これらの状況をふまえ、かつ高まる健康危機管理ニーズに対しより迅速・的確に対応するため本事業に着手しました。平成22～23年度に基本設計、23～24年度に実施設計を行い、25年1月に建設工事着工、約20か月の工期で26年8月にしゅん工しました。その後、約3か月間の移転期間を経て、26年12月に新施設開所となりました。

2 新衛生研究所の概要、特色

(1) 施設概要

| | |
|------|--|
| 住 所 | 横浜市金沢区富岡東二丁目7番1号 |
| 敷地面積 | 3,916.91 m ² |
| 構 造 | 鉄筋コンクリート造(一部プレストレストコンクリート造) |
| 階 数 | 地上7階建 |
| 高 さ | 30.95m |
| 延床面積 | 7,679.13m ² (検査棟7,653.24m ² 、附属施設25.89m ²) |
| しゅん工 | 平成26年8月29日 |
| 開 所 | 平成26年12月1日 |



場所はシーサイドライン南部市場駅から徒歩1分、国道357号線沿いです。1、2階は事務室・会議室等の共用部、3階以上が検査研究エリアで、3、4階は微生物、5～7階は理化学となっています。

| | | |
|-------|---|-----|
| 屋上 | 屋外機械設備 | |
| 7階 | 微量汚染物、共用機器室 | 理化学 |
| 6階 | 食品添加物、薬事、家庭用品 | |
| 5階 | 水質理化学、環境衛生、図書室、会議室 | 微生物 |
| 4階 | 細菌、水質環境微生物、共用洗浄室 | |
| 3階 | ウイルス、医動物 | 共用 |
| 2階 | 感染症・疫学情報課、検査研究課事務室、電子顕微鏡室、殺虫剤試験室、研修・会議室 | |
| 1階 | 所長室、管理課、放射線測定室、動物検査室、排水処理施設、電気室等 | |
| 免震ピット | | |

(2) 特色(主な機能強化のポイント)

- 延床面積の増【約1.5倍】
- 微生物安全実験室の増【1室→3室】
- 化学安全実験室(ケミカルハザード対応室)の新設
- 原虫専用実験室の新設
- 免震構造の採用
- 2回線受電方式の採用、自家発電設備の新設
- 入退室管理システムの導入

延床面積の増や各種実験室の拡充により、各種検査をより迅速に、より安全に実施することが可能になりました。

また、免震構造、自家発電設備、入退室管理システム等を導入し、安全で災害に強い施設としました。

【 管理課 機能強化担当 】